

授業概要

導入として、社会福祉の理念や価値、倫理を体得すべく、福祉の体系や歴史など基礎的な内容を講義する。その後、福祉的視点を通じて現代社会の諸問題を概観、考察し、社会保障制度、福祉関係各法律、福祉施設などに関し、誰がどのように利用しているのかを講義する。

授業計画

第1回	現代社会と社会福祉の意義「福祉は誰のためにある？」
第2回	現代社会と社会福祉の意義「福祉ニーズの変遷——戦争孤児から児童虐待へ」
第3回	現代社会と社会福祉の意義「福祉の発展——ノーマライゼーションとバリアフリーは、どこが違う？」
第4回	社会福祉の法体系「子ども・障害者・高齢者は、どのように守られている？」
第5回	社会福祉の実施体系「福祉の費用は誰が払う？ サービスはどのように行う？」
第6回	社会福祉の動向「少子高齢社会で何が起きているか？」
第7回	社会福祉の動向「地域の子育て力を強化するために、どうすればよいか？」
第8回	社会福祉の動向「社会福祉基礎構造改革で何が変わったか？」
第9回	利用者保護制度の概要「第三者評価、苦情解決、権利擁護」
第10回	社会保障の意義「高齢者の年金を若者が払う理 は？」
第11回	社会保障の意義「労働保険は誰のため？」
第12回	社会保障の意義「医療保険の制度とは？」
第13回	社会保障の意義「介護保険でできることは？」
第14回	身近な社会福祉「DV はなぜ起こる？」
第15回	身近な社会福祉「最後のセーフティネット生活保護」
第16回	試験

到達目標

高齢者や障害者など、現在の「自分」からは遠い立場にいる人々と、どのように共生していくのか、そのためにはどのような社会が望ましいのか、自らデザインできる学生になることを目標とする。

履修上の注意

遅刻は3回で1回欠席とする。欠席5回で失格。授業中の携帯電話、メール、ゲームなどは厳禁。自ら、今の社会を読み解こうという意欲を持つことが望まれる。

予習復習

前の週のノートを次の週に携帯すること。毎週、前の週の復習テストを行う。

評価方法

試験 80% 授業態度 20%

テキスト

『社会福祉を学ぶ』（山田美津子/稲葉光彦著）みらい